(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3148845号
(U3148845)
(45)発行日　平成21年3月5日(2009.3.5)　(24)登録日　平成21年2月12日(2009.2.12)

(51)Int.Cl.　F I
A41B 11/00 (2006.01)　A41B 11/00 J
A41B 11/00 Z

評価書の請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 6 頁）

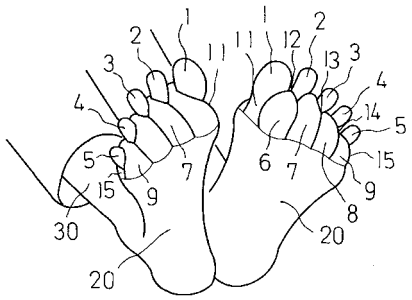
(21)出願番号　実願2008-8777(U2008-8777)
(22)出願日　平成20年12月15日(2008.12.15)

実用新案法第１１条において準用する特許法第３０条第１項適用申請有り

(73)実用新案権者　000144784
株式会社山忠
新潟県加茂市大字下条甲４９６番地１
(74)代理人　100066821
弁理士　庄司　建治
(72)考案者　亀山　貴司
新潟県加茂市大字下条甲４９６番地１　株式会社山忠内

(54)【考案の名称】靴下

(57)【要約】　（修正有）
【課題】足の冷え対策として、靴下の先端に突き出る足の指を運動できると共に、足指間のツボを刺激し、保温効果に優れた靴下を提供する。
【解決手段】靴下の先端が開口された先端開口部に形成され、先端開口部に、４個の仕切り部６、７、８、９が取り付けられ、隣り合う仕切り部６、７、８、９の間又は仕切り部６、９の隣りは、足３０の親指１、人指し指２、中指３、薬指４、小指５の各指が突出して運動自在な足指突出部１１、１２、１３、１４、１５が形成されている。仕切り部６・・・はパイル編みによるループ状に形成され、その内側屈曲部に位置する足指１、２、３、４、５間の付け根が刺激自在である。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
靴下の先端は開口された先端開口部に形成され、前記の先端開口部に、複数の仕切り部が取り付けられ、隣り合う前記仕切り部の間又は仕切り部の隣りは、足の親指、人指し指、中指、薬指、小指の各指が突出して運動自在な足指突出部に形成されていることを特徴とする靴下。
【請求項２】
仕切り部は、先端開口部に４個取り付けられていることを特徴とする請求項１に記載した靴下。
【請求項３】
仕切り部は、パイル編みによるループ状に形成されており、当該ループ状仕切り部の内側屈曲部に位置する足指間の付け根が刺激自在に構成されていることを特徴とする請求項１又は２に記載した靴下。
【請求項４】
仕切り部の中には、綿が収納されていることを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載した靴下。
【請求項５】
隣り合う仕切り部は、近接して配置されていることを特徴とする請求項１～４のいずれか１項に記載した靴下。
【請求項６】
内端の足指突出部から突出する親指に隣接する内寄りの仕切り部は、他の仕切り部に比べて大きく形成されていることを特徴とする請求項１～５のいずれか１項に記載した靴下。
【請求項７】
靴下の底面に、左右の靴下を識別可能な文字等の左右区別表示部が設けられていることを特徴とする請求項１～６のいずれか１項に記載した靴下。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、靴下を履きながらにして足の指を動かしつつ、足指間のツボを刺激して、足の冷え対策に適した靴下の技術分野に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、足の指が出せる靴下として、登録実用新案第３０５９７１６号公報に記載のものが開示されている。同公報に記載の指、踵が出る、幼児の滑らない靴下は、靴下（１）の親指と人指し指の股（３）の部分を残して、親指（２）と人指し指、中指、薬指、小指４本分（４）と、踵（５）の３か所をカットした指、踵が出る構成である（請求項１）。
【０００３】
【特許文献１】登録実用新案第３０５９７１６号公報
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
前記文献１記載の靴下は、そもそも幼児にとって嵩張らず、フィットし、足指の力が入るように開発された。そのため、先端から各指が出ているものの、親指と人指し指の股の部分を残してカットされた靴下の先端から、親指とその他の指がただ突き出ているだけで、足指間のツボを刺激するものではなく、足の冷え対策にはむしろ不都合である。
【０００５】
したがって、本考案の目的は、特に就寝前に温度が下がりがちな足の冷え対策として、当該靴下を履いても、靴下の先端に突き出る足の指を運動できると共に、足指間のツボを刺激し、保温効果に優れた靴下を提供するものである。

【課題を解決するための手段】
【０００６】
前記課題を解決するための手段として、請求項１記載の考案の靴下は、当該靴下の先端が開口された先端開口部１０に形成され、前記先端開口部１０に、複数の仕切り部６、７、８、９が取り付けられ、隣り合う前記仕切り部６、７、８、９の間又は仕切り部６、９の隣りは、足３０の親指１、人指し指２、中指３、薬指４、小指５の各指が突出して運動自在な足指突出部１１、１２、１３、１４、１５に形成されていることを特徴とする。
【０００７】
請求項２記載の考案の靴下は、前記仕切り部６、７、８、９が、先端開口部１０に４個取り付けられていることを特徴とする。
【０００８】
請求項３記載の考案の靴下は、前記仕切り部６、７、８、９が、パイル編みによるループ状に形成されており、当該ループ状仕切り部６、７、８、９の内側屈曲部６Ａ、７Ａ、８Ａ、９Ａに位置する足指１、２、３、４、５間の付け根ａ・・・が刺激自在に構成されていることを特徴とする。
【０００９】
請求項４記載の考案の靴下は、前記仕切り部６、７、８、９の中に、綿が収納されていることを特徴とする。
【００１０】
請求項５記載の考案の靴下は、隣り合う前記仕切り部６、７、８、９が、近接して配置されていることを特徴とする。
【００１１】
請求項６記載の考案の靴下は、内端の前記足指突出部１１から突出する親指１に隣接する内寄りの仕切り部６が、他の仕切り部７、８、９に比べて大きく形成されていることを特徴とする。
【００１２】
請求項７記載の考案の靴下は、その底面２０に、左右の靴下を識別可能な文字等の左右区別表示部２１が設けられていることを特徴とする。
【考案の効果】
【００１３】
請求項１記載の考案は、靴下の先端が開口された先端開口部に形成され、前記の先端開口部に、複数の仕切り部が取り付けられ、隣り合う前記仕切り部の間又は仕切り部の隣りは、足の各指が突出して運動自在な足指突出部に形成されているので、とりわけ風呂上りから就寝前に温度が下がりがちな足に、当該靴下を履けば、足指突出部から突き出た足の指を運動できて血行を良くしつつ、仕切り部に係止する足指の間のツボを刺激し、保温効果による足冷えの解消に貢献する。
【００１４】
前記の仕切り部は、請求項２記載のように、先端開口部に４個取り付けられているので、隣り合う仕切り部の間又は隣りに形成された足指突出部から、足の５本の親指、人指し指、中指、薬指、小指がそれぞれ突き出た状態で、各指をぐいぐいと動かして気持ちよく運動できる。
【００１５】
その上、請求項３記載の考案のように、仕切り部はパイル編みによるループ状に形成されているので、足指突出部から突出した指の付け根に位置する冷えの関するツボが、当該ループ状仕切り部の内側屈曲部に係止して刺激される。よって、かかる状態で各指をぐいぐいと動かすと、より運動効果が促進され、体の中から効果的に温められる。
【００１６】
また、このループ状仕切り部は柔らかいパイル編みであるから、ふんわり暖かで肌触りがよく、汗や水分も素早く吸収し蒸れずに快適である。
【００１７】

しかも、請求項４記載の考案の如く、当該仕切り部の中には綿が収納されているので、クッション性が良好である。

【００１８】

請求項５記載の考案は、隣り合う仕切り部が近接して配置されているので、仕切り部間や隣りに形成された足指突出部において、適度に足の各指を左右方向から圧迫され、足指の運動を良好ならしめている。

【００１９】

また、請求項６記載の靴下のように、内端の足指突出部から突出する親指に隣接する内寄りの仕切り部は、他の仕切り部に比べて大きく形成されているので、左右の靴下において内端の足指突出部から親指を難なく突出できると共に、親指と人差し指との間の付け根のツボが、この若干大きな仕切り部により適切に刺激される。

【００２０】

さらに、請求項７記載の靴下のように、底面に左右の靴下を識別可能な文字等の左右区別表示部が設けられているため、この左右区別表示部を目印として左右の靴下を間違えることなく履くことができて便利である。

【考案を実施するための最良の形態】

【００２１】

本考案に係る靴下の好適な実施形態を、以下図面にしたがって説明する。本請求項１～７記載の考案に関する実施の形態は共通しているので、一括して説明する。なお、本靴下は左右一対で使用されるが、以下の説明の便宜上、左右いずれか一方の靴下につき説明する。

【００２２】

本実施形態の靴下は、綿９０％、毛１０％の素材で形成され、その裏側の全部がパイル編みで編成され、先端は開口された先端開口部１０に形成されている。その先端開口部１０に、４個の仕切り部６、７、８、９が取り付けられている（図３参照）。

【００２３】

前記仕切り部６、７、８、９は、各々パイル編みによるループ状に形成されている。すなわち、各仕切り部６、７、８、９は、指が突出する先端方向に上下に湾曲するループ状であって、縦断面方向からみるとＣ字状に形成されている（図３参照）。また、各仕切り部６、７、８、９の中には綿が収納されており、クッション性が良い。

【００２４】

また、当該仕切り部６、７間、同仕切り部７、８間、同仕切り部８、９間は、それぞれ近接して配置する実施形態が好ましい。一方、両端の仕切り部６、９の開放端は、後述の如く親指１又は小指５が突出可能なように、少し隙間を空けて形成されている（図１参照）。

【００２５】

そして、隣り合う前記仕切り部６、７、８、９の間又は仕切り部６、９の隣りは、足３０の親指１、人指し指２、中指３、薬指４、小指５の各指が突出して運動自在な足指突出部１１、１２、１３、１４、１５に形成されている。

【００２６】

かくして、この靴下を履いたとき、当該ループ状仕切り部６、７、８、９の内側屈曲部６Ａ、７Ａ、８Ａ、９Ａに位置する足指１、２、３、４、５間の付け根ａ（ツボ）・・・が、当該内側屈曲部６Ａ、７Ａ、８Ａ、９Ａに係止して刺激される（図２参照）。

【００２７】

したがって、かかる状態で各指１、２、３、４、５をぐいぐいと動かすと、前記各指間の付け根のツボａが刺激されつつ運動効果が促進され、体の中から効果的に温まる（図１）。

【００２８】

また、本靴下は、図４に右側靴下の裏面図として示したように、内端の前記足指突出部１１から突出する親指１に隣接する内寄りの仕切り部６が、他の仕切り部７、８、９に比

べて大きく形成する実施形態が好適である。これにより、靴下の内端の足指突出部１１から親指１をスムーズに突出できる。

【００２９】

さらに、同図４のように、靴下の底面２０に、左右の靴下を識別可能なように、図示例の如く右側の靴下用として「Ｒ」の文字のプリントを施したり、図示例を省略した左側の靴下用として「Ｌ」の文字のプリントを施すこと等による左右区別表示部２１が設けられている。よって、この左右区別表示部２１を目印として、左右の靴下を間違えることなくスムーズに履くことができる。

【図面の簡単な説明】

【００３０】

【図１】本考案の靴下の使用状態を示した斜視図である。

【００３１】

【図２】足指間の冷えに関するツボを示した平面図である。

【００３２】

【図３】本考案の靴下を斜視方向から示した説明図である。

【００３３】

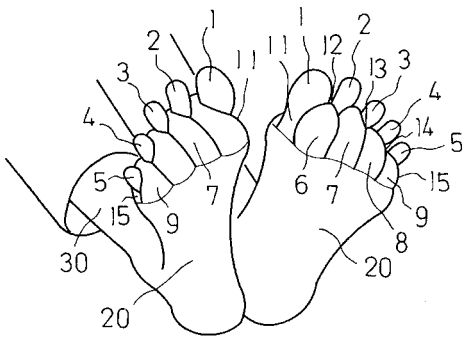
【図４】本考案の靴下を裏面方向から示した説明図である。

【符号の説明】

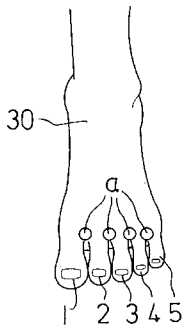
【００３４】

１・・・足の指（親指）
２・・・足の指（人指し指）
３・・・足の指（中指）
４・・・足の指（薬指）
５・・・足の指（小指）
ａ・・・足指間の付け根
３０・・足
６、７、８、９・・・仕切り部
６Ａ、７Ａ、８Ａ、９Ａ・・内側屈曲部
１１、１２、１３・・・足指突出部
１４、１５・・・足指突出部
１０・・・先端開口部
２０・・・底面
２１・・・左右区別表示部

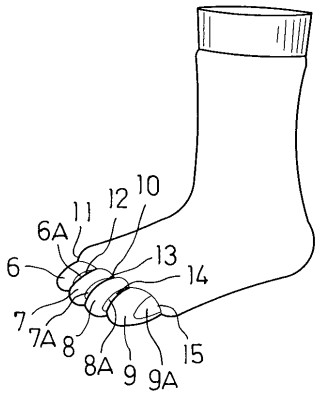
【図１】


1
2
3
4
5
15
9
7
30
20
11
12
13
14
6
8

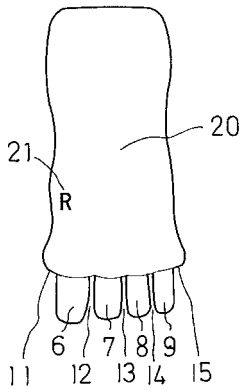
【図２】


30
a
1
2
3
4
5

【図３】


10
11
12
6A
6
13
14
7
7A
8
8A
9
9A
15

【図４】


20
21
R
6
7
8
9
11
12
13
14
15